浜田医療センターの理念

# 医療を通じて「地域で生きる」を支援する

**基本方針**

1. 安全で良質な医療の提供
2. 患者に寄り添った医療
3. 介護、福祉との連携
4. 地域の町づくりに貢献
5. 地域住民と職員の健康増進
6. 持続可能な健全経営

**患者さんの権利**

- 人格・価値観が尊重される権利
- 良質な医療を受ける権利
- 十分な説明と情報を得る権利
- 自己決定の権利
- 個人情報が守られる権利

当院を身近に知っていただくため公式ホームページ及び公式 faceBook を作成しています。一度ご覧ください。

**ホームページ**

https://hamada.hosp.go.jp/

**facebook**

https://www.facebook.com/hamadamedicalcenter

浜田医療センター で検索！

contents


2〜4 特集：口腔ケアについて
5 認定看護師の活動について
6 地域連携室
7 診療看護師の活動について
8〜9 看護学校だより
10 がん相談支援センターだより
11 春の特別メニュー / 職員募集
12 外来診療担当医表


特集

# 口腔ケアについて

歯科口腔外科医師
都田 絵梨奈
【とだ・えりな】
東京歯科大学：平成29年3月卒業
日本口腔外科学会認定口腔外科認定医


**歯科口腔外科の都田と申します。**
**今回は、様々な口腔ケアについてお話します。**

## ❶ 口腔ケアとは

口腔ケア（口腔健康管理）は、歯科治療やお口（口腔）の衛生、口腔の大切な機能である摂食や構音、嚥下などを維持・

向上することを主としています。口腔の病気予防、健康保持・増進、リハビリテーションを行うことで、QOL（Quality of Life：生活の質）の向上を目的としており、具体的には感染症の予防や重症化の予防、がんや心疾患などの治療における支持療法や認知症の予防や進行の予防など、高齢者への各種サポートも含め多岐にわたります。一般的には検診、口腔清掃、義歯の着脱と手入れ、咀嚼・摂食・嚥下のリハビリ、歯肉・頬部のマッサージ、食事の介護、口臭の除去、口腔乾燥予防などがありますが、口腔ケアの臨床、研究の進歩により各種治療を含めた多職種によるチームアプローチ（集学的治療）が行われるなど、近年重要視されています。

## ❷ 周術期管理と口腔ケアの関わりについて

様々な全身疾患により、全身麻酔下での手術が必要な場合があります。「周術期」とは、手術が決定した外来から入院、麻酔・手術、術後回復といった、手術中のみでなくその前後も含めた一連の期間のことを言います。全身麻酔にて行う手術では、必ず呼吸の管理のために気管チューブを口腔から入れます（気管挿管）。したがって麻酔によって眠っている最中は口腔に管（気管チューブ）を通した状態となります。気管チューブの挿入の際に必ず一定の確率で生じる合併症として、歯の詰め物や虫歯や歯周病によって弱くなった歯が折れる、詰め物が取れるなどの危険性があります【図１・２】。そのため、必ず歯科医師/口腔外科医や歯科衛生士に術前に口腔の評価をしてもらうことが必須です。

また術中・術後に長時間にわたり気管チューブが挿入される方は、チューブを伝って口腔のばい菌（口腔内細菌）が肺に入ることで術後肺炎や人工呼吸器関連肺炎（VAP）が生じるリスクがあります。術後にも気管チューブが挿入されている間の口腔ケアは、看護師をはじめ、口腔の専門家である歯科衛生士が患者様方に代わってこまめに口腔の衛生管理を行う必要があります。

図1. 気管挿管によって折れるリスクのある歯

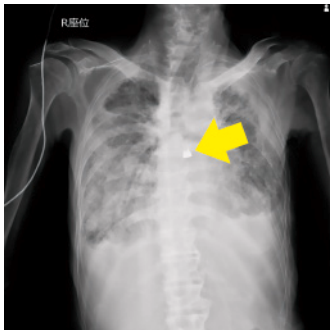


図2. 肺に落ちた歯の詰め物

周術期管理は多職種が連携するチーム医療です

## ❸ がんの抗がん剤治療（化学療法）や放射線治療における口腔ケア

抗がん剤治療や口腔や頭頸部が放射線治療の範囲に入る場合、高い確率で口腔有害事象（治療によって生じる副作用の総称）が生じることがわかっています。具体的には、口腔粘膜炎（治療の影響による大きな口内炎）、口腔カンジダ症、ウイルス性口内炎、口腔内出血など多岐にわたる症状がでる可能性があります【図３-６】。これらの口腔有害事象は、単なる口腔の副作用にとどまらず、重症化すればがん治療の中断、中止、さらには

生命の維持を脅かすような重篤な合併症に関わるため、歯科医師/口腔外科医による治療と歯科衛生士による定期的な口腔ケア管理が必要となります。

図3. 抗がん剤治療による口内炎

図4. 口腔カンジダ症

図5. ウイルス性口内炎

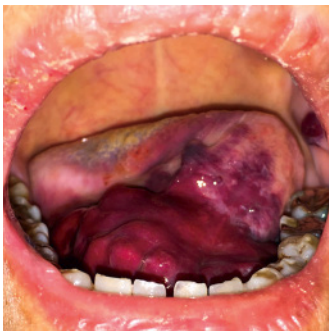


図6. 口腔内出血

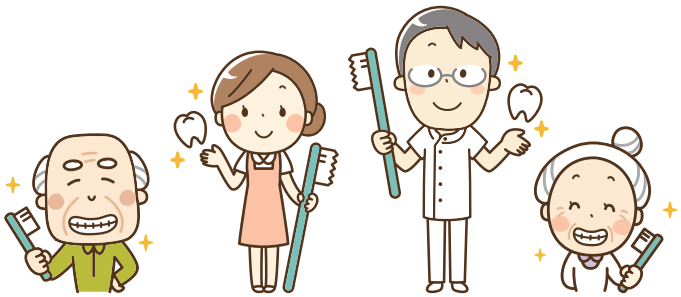
## ❹ 緩和ケアにおける口腔ケア

緩和ケアでは様々な薬やケアによって、快適な療養生活を送ることができるようにサポートを受けることができます。しかし、全身状態の悪化やお口からの食事量の低下、セルフケア能力の低下、使用する薬剤によっては免疫力低下などの副作用が生じます。特に、患者様の多くは口腔乾燥に悩まされます。そのため、口腔カンジダ症や義歯性潰瘍（入れ歯の擦れによって生じる口内炎）が起きやすく、口腔内に痛みや違和感・味覚障害が出現する可能性があり、口腔ケアが重要となります【図７、８】。適切な口腔ケアを受けることで食べたいものを食べ、話したいことを話すことは、療養上の体調管理として必要であるのみならず、患者様のQOLを維持、向上するうえで重要な役目を果たします。

図7. 口腔カンジダ症

図8. 義歯性潰瘍

## ❺ 普段から定期的に歯科受診をしましょう

術後やがんの治療後は口腔や全身の機能が低下している場合があります。治療の影響から早期に回復するには、健康な口腔で食事を取ること、会話をして社会との関わりをもつことが重要になります。口腔内の有害事象を助長させる原因として、未治療の歯や口腔内の清掃不良、歯周炎や義歯による傷などが挙げられます。したがって、全身的治療を行う前から入院する病院の歯科口腔外科を受診しておき、治療対象の部位がないかなど確認しておくことが必要です。口腔内の治療は1回で終了せずに、時間がかかることがあります。かかりつけ歯科医院を定期的に受診し、う蝕（むし歯）や歯周病の予防・早期発見・早期治療、詰め物や義歯の点検に務めましょう。口腔内有害事象の重症化を防ぐことができます。

病院の歯科口腔外科とかかりつけ歯科医院もしくは医科と歯科のスムーズな連携をするためにも、特に周術期は常に歯科医師/口腔外科医、歯科衛生士との関わりをもって、必要に応じて紹介状等を作成してもらうことが重要です。